鷹の目の狩人 XIII

一年の計、さらなる希望へ

しろはく古地図と城の博物館富原文庫
代表 富原　道晴

あけましておめでとうございます。毎年、年賀状に昨年の近況報告をしています。会津の屏風展、真田の城郭と戦歴展、目の手術、起業とあわただしい一年でした。一昨年までは、経済人としては、開発が担当でしたので、業界の未来を見つめ、企業としてなすべき道を探っていました。業界人としては、ライバルであっても共通する利益はある。業界の発展が個別企業の発展につながるという信念で、業界の課題解決と対策を見つめていました。業界と企業において、置かれた立場で自分のなすべき業務を見つめ、ひたすら挑戦していました。自分にしかできないことが何か。何をやるべきか。自問自答していました。

経済人を離れ、自由人となって、一年半です。24 時間、城という、うれしい時間です。休みはありません。月月火水木金金の毎日で、二週間に一日程度、疲れて休養しています。文庫の資料整理と活用、地域活性化を行うとともに、連日、新資料の発見を求め東奔西走、入手した膨大な新規資料の整理に明け暮れしていました。朝 9 時から夕方まで整理、夜は読書タイムです。資料の整理はすべて紙ですので助かりますが、軽い和紙に比較して、土で塗り固めた洋紙の重いこと。今、重い本、嵩張る本は殆ど売れない時代です。百科事典や図鑑、重い写真集も全滅です。何故か城郭文献は好評です。城郭文献のすべてを集め、編年史を完成させるという目論見も、近年のように膨大な出版量と文化財行政の非売品化のもとでは危機に瀕しています。

大阪城天守閣再建時（1931 年）、同時鋳造ミニチュア銅製鯱

城郭研究の進歩は目覚ましいものがあります。大学教授、教育委員会を職業とされる城郭研究家の成果は日を追う如し、です。基本的に、その先を歩くことは容易ではありませんが、城の研究が一級史料である現地遺構調査に根差している以上、誰が調査しても、そこに、築城者の目があれば、遺構を読み解き、築城者の真意を見ることができます。逆に、学会といわれる城郭調査でも、築城学的、軍事的素養がなければ、考古学も単に遺跡の合法的破壊になります。現地遺構調査を基本とする以上、現実に城郭の現地調査に体力的限界が出てきそうです。

木彫手彫りの鯱

金属加工の鯱

一年の計というより、今、何ができるかの自問自答です。城郭の現地調査による解明に限界が感じられるとなると、誰にもできていないことは城郭資料の収集と公開です。博物館でさえ、閉鎖の危機に見舞われ、各地の資料探検に躊躇されています。地域を支える博物館が、です。全国規模の城郭資料を集積、公開する機関は殆どありません。城郭博物館といわれるものはないのです。地域別には安土城や名護屋城、佐賀城、国吉城、姫路城等が城郭博物館です。ということから、生涯賭けて、全世界の城郭資料の発見という希望、公開という地域活性化が使命かと考えました。安土城図屏風の発見が 50 年来の絶え間なき目標です。

一年の計、皆さんは生涯の目標を見定めていますか。

瓦製の金鯱